

4 ダイオキシン類調査

平成11年7月に公布されたダイオキシン類対策特別措置法において、従来ダイオキシン類と呼ばれたポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン(PCDD)とポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)にコプラナーPCBを加えたものが「ダイオキシン類」と定義され、環境基準も設定された。これを受け、県において計画的に一般大気環境、公共用水域、地下水、土壌のダイオキシン類濃度を測定している。

市でも、一般大気環境のダイオキシン類濃度の調査を平成11年度より旧あやめ荘にて行っている。

4-1 令和元年度一般大気環境ダイオキシン類濃度調査結果

(1)調査地点 大倉大気汚染測定局(千葉県)・旧あやめ荘(香取市)

(2)試料採取期間

下記の日程で7日間連続試料採取した。

夏季 令和元年7月10日～7月17日

冬季 令和2年1月8日～1月15日

※調査回数については、千葉県と同様に夏・冬の年2回としている。

(3)測定分析方法

「ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル(環境省 平成20年3月改訂)」に基づき実施した。

(4)調査結果

一般大気環境の年平均値は、大倉大気汚染測定局が0.021pg-TEQ/m³、旧あやめ荘が0.053pg-TEQ/m³であり、いずれも環境基準値(年平均値0.6pg-TEQ/m³)を下回っていた。(表4-1)

なお、千葉県内の調査地点の平均は、0.032pg-TEQ/m³であった。

表4-1 一般大気環境ダイオキシン類濃度調査結果 単位:pg-TEQ/m³

調査地点	夏季	冬季	平均値	環境基準値
大倉測定局	0.012	0.029	0.021	0.6
旧あやめ荘	0.070	0.035	0.053	

(参考)

1. ダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)及びコプラナーポリ塩化ビフェニール(コプラナーPCB)と定義されている。
2. ダイオキシン類の濃度は、各異性体によって毒性が異なるため、最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾーパラージオキシンの毒性に換算して合計した毒性等量(TEQ)によって表すこととされている。

4-2 令和元年度公共用水域(水質・底質)ダイオキシン類濃度調査結果

本年度、千葉県が実施した香取市内の公共用水域における、ダイオキシン類濃度測定結果は、下記のとおりである。

- (1) 調査地点 水質調査 与田浦川:与田浦橋
 黒部川:迎田橋、中央大橋
 清水川:山川橋、清水橋
 底質調査 与田浦川:与田浦橋
 清水川:清水橋

(2)測定分析方法

水質:JIS K 0312に基づき実施した。

底質:「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル」に基づき実施した。

(3)調査結果

水質については、市内5地点で調査したが、環境基準(1pg-TEQ/L以下)を超過した地点はなかった。

また、千葉県内の74地点における測定結果は0.017~1.9pg-TEQ/Lの範囲にあり、全地点の平均値は0.33pg-TEQ/Lであり、過去3年とほぼ同水準であった。

底質については、市内2地点で調査したが、環境基準値(150pg-TEQ/L以下)を超過した地点はなかった。

また、県内の41地点における測定結果は0.12~66pg-TEQ/gの範囲にあり、全地点の平均値は6.4pg-TEQ/gであり、過去3年とほぼ同水準であった。

表4-2 公共用水域(水質・底質)ダイオキシン類濃度調査結果

水 質		単位:水質pg-TEQ/L 底質pg-TEQ/g	
河川名	測定地点名	測定結果	環境基準値
与田浦川	与田浦橋	0.82 (2.9)	1 (150)
	黒部川	迎田橋	
中央大橋		0.72	
清水川	山川橋	0.42	
	清水橋	0.91 (3.6)	

()内は底質

4-3 令和元年度地下水質ダイオキシン類濃度調査結果

本年度、市内における地下水ダイオキシン類濃度調査はなかった。

なお、県内では20地点について調査が行われた。測定結果は、0.0085～0.062pg-TEQ/Lであり、全地点の平均値は0.030pg-TEQ/Lであった。いずれの地点も環境基準(1pg-TEQ/L以下)を超過する地点はなかった。

なお、常時監視を開始した平成12年度以降、環境基準を超過した地点はない。

4-4 令和元年度土壌ダイオキシン類濃度調査結果

本年度、市内における土壌ダイオキシン類濃度調査はなかった。

なお、県内では35地点について調査が行われた。うち26地点は一般環境把握を目的として測定を行い、測定結果は、0.0017～29pg-TEQ/gの範囲にあり、平均値は2.5pg-TEQ/gであった。その他の9地点は発生源周辺の状況把握を目的として測定を行い、測定結果は、0.0027～23pg-TEQ/gの範囲にあり、平均値は5.8pg-TEQ/gであった。いずれの地点も環境基準(1,000pg-TEQ/g以下)及び追加調査の目安となる指標値(250pg-TEQ/g)を下回っていた。35地点の測定結果は、0.0017～29pg-TEQ/gの範囲にあり、平均値は3.3pg-TEQ/gであった。

なお、常時監視を開始した平成12年度以降、環境基準を超過した地点はない。